



TITLE:

執筆者二〇二〇年度業績欄

AUTHOR(S):

CITATION:

執筆者二〇二〇年度業績欄. 京都メディア史研究年報 2021, 7: 304-308

ISSUE DATE:

2021-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/262825>

RIGHT:

執筆者二〇二〇年度業績欄

(掲載順、三点以内)

○佐藤卓己(京都大学大学院教授、副研究科長、理事補)

- ・『『キング』の時代―国民大衆雑誌の公共性』(岩波現代文庫、二〇二〇年)
- ・『メディア論の名著30』(ちくま新書、二〇二〇年)
- ・ジョージ・L・モッセ『大衆の国民化―ナチズムに至る政治シンボルと大衆文化』(ちくま学芸文庫、二〇二一年)

○佐藤彰宣(流通科学大学講師)

- ・「『明日の教養』と『戦争の記憶』との接点―占領期以後における雑誌『丸』の変容」『神戸外大論叢』第七二巻(二〇二〇年)
- ・「余計物にとつての『明治』と『民衆』―時代劇か

ら問う近代日本」山本昭宏編『近頃なぜか岡本喜八―反戦の技法、娯楽の思想』(みずき書林、二〇二〇年)

- ・「個人参加型フットサル―「おひとりさま」で行うチームスポーツの規範」秋谷直矩・團康晃・松井広志編『楽しみの技法―趣味実践の社会学』(ナカニシヤ出版、二〇二一年)

○木下浩一(帝京大学文学部社会学科講師)

- ・研究ノート「キヤスターニュースと娯楽化をめぐる用語の定義」『京都メディア史研究年報』第六号(二〇二〇年)

・【口頭発表】社会情報学会東北支部研究発表会「ジャーナリズムについて大学で何を教えるべきか―ジャーナリズム教育とジャーナリスト教育」(二〇二一年三月一四日、東北大学)

○彭永成(京都大学大学院博士課程、国費留学生)

- ・「中国における『家族の個人化』の形―『誰在你家中

国「个体家庭」的选择』、『京都メディア史研究年報』

第六号（二〇二〇年）

・「結婚情報のメディア史―雑誌『ゼクシイ』を中心に」、『京都大学教育学研究紀要』第六六号（二〇二〇年）

〇年）

・「『ゼクシイ』における理想的な結婚イメージの創出―結婚情報誌からブライダル情報誌へ」、『マス・コミュニケーション研究』第九七号（二〇二〇年）

○本田毅彦（京都女子大学教授）

・「一九七〇～八〇年代イギリスのテレビ業界に見る王室ソープ・オペラの起源と展開」、『京都メディア史研究年報』第六号（二〇二〇年）

・「最後のデリー・ダーバーはなぜ回避されたのか―一九三〇年代後半の英領インドをめぐる諸情勢」、『史窓』七七号（二〇二一年）

○福間良明（立命館大学産業社会学部教授）

・『「勤労青年」の教養文化史』（岩波新書、二〇二〇年）

・『戦後日本、記憶の力学―「継承という断絶」と無難さの政治学』（作品社、二〇二〇年）

・「現代メディア史と戦前・戦後の社会変容―浪田陽子・福間良明編『はじめてのメディア研究』第二版』（世界思想社、二〇二一年）

○白戸健一郎（筑波大学人文社会学系助教）

・「書評：大野哲哉『通信の世紀―情報技術と国家戦略の一五〇年史』」、『メディア史研究』四八号（二〇二〇年）

○松永智子（東京経済大学准教授）

・「島の暮らしと「移民」のメディア」人間学研究会『道標』第七十二号（二〇二一年三月、印刷中）

○トパチヨール・ハサン（ユスキュダル大学助教）

・ Topacoglu, Hasan. (2020). Historical Origins, Institutionalization and Contemporary Educational Programs of Japanese Cultural Studies. TRT Akademi, 6 (10), 536-555.

・ 【口頭発表】Towards 2023 : What Can Turkey Learn From Japan for Its Centennial - 2nd International Conference on Innovative Studies of Contemporary Sciences - August 17 -19, 2020, Tokyo /Japan (Via Zoom)

・ 【口頭発表】 The Characteristic of Collective Memory Studies in Japan - 7th International Communication Days - 21-23 October, Istanbul / Turkey

○花田史彦（大手前大学非常勤講師、同志社大学嘱託講師、立命館大学授業担当講師）

・ 「大衆」と「民族」のあいだー映画《山びこ学校》をめぐる市場 駒込武編『生活綴方で編む「戦後史」ー〈冷戦〉と〈越境〉の一九五〇年代』（岩波書店、二〇二〇年）

・ 「グラビアと啓蒙ー戦後初期の『近代映画』が伝えたもの」谷川建司編『映画産業史の転換点ー経営・継承・メディア戦略』（森話社、二〇二〇年）

・ 「青年の理想主義についてー映画『若者たち』とポスト高度成長期のサークル文化運動」『人文学報』第一一六号（二〇二一年）

○王令薇（京都大学大学院教育学研究科博士課程、日本学術振興会特別研究員）

・ 「教育議論におけるNHK『中学生日記』の役割ー制作者側・視聴者側の語りを中心にー」『京都大学教育学研究科紀要』第六七号（二〇二一年）

・ 【口頭発表】「NHK『中学生日記』にみる青少年への社会的関心の変容」日本マス・コミュニケーション学会二〇二〇年春季大会（二〇二〇年六月、オンライン）

○温秋穎（京都大学大学院教育学研究科博士課程、日本学術振興会特別研究員）

・「戦前日本放送協会の言語観について―日本放送協会の放送研究雑誌を中心に」『京都メディア史研究年報』第六号（二〇二〇年）

・「現代国語運動中的传播学启示―读《声入心通…国語運動与現代中国》（近代国語運動のコミュニケーション学への示唆―書評『声入心通…国語運動と近代中国』）」『武漢大学異文化間コミュニケーション研究室 随波逐流WHU』（電子版）（二〇二〇年）

・「戦前放送中国語「支那語講座」のメディア史―他者の言語を想像する文化の政治」（二〇二〇年度京都大学大学院教育学研究科修士論文）

○松尾理也（大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科教授、学科長）

・【博士論文】「「関西ジャーナリズム」の歴史社会的な研究―『大阪時事新報』を中心に」（二〇二〇年）（京都大学大学院教育学研究科提出）

・「明治末期のメディア・イベント「汽車博覧会」と『大阪時事新報』」『メディア史研究』第四八号、二〇二〇年

・「関西ジャーナリズムの系譜学―『大阪時事新報』の視点から」『メディア史研究』第四九号、二〇二一年

○趙相宇（立命館大学産業社会学部国際調査・教育センター特任助教）

・【口頭発表】「日韓併合記念日のメディア史…動員と抵抗の演出」メディア史研究会（二〇二〇年九月、NOON 開催）

○比護遥（京都大学大学院教育学研究科博士課程、日本学術振興会特別研究員）

・「[研究報告] 日仏美術品交換の企図と挫折（一八八二―一八八五）―外務省記録から見る国際文化交流の事例として」『文化資源学』第一八号（二〇二〇年）

- ・「抗戦期中国の読書と動員―政治コミュニケーションから見る『読書生活』（一九三四―一九三六）」『現代中国研究』第四五号（二〇二〇年）
- ・「消費する読者への政治的期待―一九三〇年代中国の読書雑誌を手掛かりに」『マス・コミュニケーション研究』第九八号（二〇二二年）